

第5節 安全な水道水を安定供給する

現状と課題

本市では、これまでの人口の増加や生活水準の向上に伴う水需要に対して、自己水（地下水）と京都府営水道の利用により安全で安定的に水道水を市民に供給し、かつ配水管などを含む水道施設の整備充実に努めています。今後も、水道水源の確保や漏水防止など水の安定供給に努めていく必要があります。

一方、近年の給水人口の減少や節水器具の普及などにより給水収益が減収するなかで、浄水場や一部配水管などの老朽化、アスベストセメント管の布設替えなどへの対応が求められています。今後、これらに対応するため、長期的な視点に立って事業全体を見直し、より効率的、効果的な事業手法による事業計画の策定を行い、健全な企業運営と安定した事業実施に取り組んでいく必要があります。

基本方針

水道施設の計画的な更新などにより、より一層の市民生活や産業活動に必要な安全で安定した水の供給をめざします。

地下水の保全による水源の確保や水道水の漏水防止などにより、水の有効利用をめざします。水道ビジョンを踏まえつつ、適正な水道料金のもとに、健全な公営企業経営をめざします。

まちづくり指標

まちづくり指標名	説明	単位	現状値	5年後の	10年後の	めざすべき
				目標	目標	目標
有収率	水道料金の徴収の対象となった水量（有収水量）／配水量	%	93.9	95	97	100
アスベストセメント管の更新	残存延長	m	2,284	0	0	0

主な施策の展開

（１）水道水の安定供給

市民の生活水準の向上や産業などの発展を維持するため、アスベストセメント管や鉛給水管などの布設替えを進めるとともに、渇水や災害など非常時に備えた計画的な水道施設の整備に努め、水道水の安定供給を図ります。

（２）水の有効利用

将来的にも市民の命の水を守るため、市民や企業などの協力も得て、地下水の保全などによる水道水源の確保と節水意識の高揚に努め、その有効利用を図ります。また、水道水の地

下漏水の防止を図り、有収率の向上に努めます。

(3) 水道事業の健全な経営の推進

水道の将来像について、行政と市民の共通認識を形成しつつ、市民サービスの向上と経費節減により給水原価の抑制を図るなど、「地域水道ビジョン」を策定し、水道事業の健全な経営を推進します。

市民まちづくりワークショップからの提言

市民の役割(例示)

応分の負担の原則に基づき、水道料金を速やかに支払う。
限りある資源である水を大切に使う。

【用語説明】

アスベストセメント管(石綿セメント管): セメントに石綿を混ぜて製造したもので、「サビ水が出ない」、「安価で加工しやすい」などの理由で昭和30年代を中心に全国の水道事業体で採用されました。しかし、酸性の強い土や地下水の影響などで管が腐食して弱くなり破損する傾向が強いことが分かってきたため、より強度の高いものに交換されるようになっている。

有収率: 浄水場から供給した配水量に対する料金徴収の対象となった水量の割合。水道事業の効率性を計る一つの指標。

水道ビジョン: 平成16年度に厚生労働省が21世紀初頭における水道事業のあるべき姿として策定した指針。地方自治体においては、これをもとに平成20年度までに「地域水道ビジョン」の策定が求められている。

地域水道ビジョン: 水道事業者などが自らの事業の現状と将来見通しを分析・評価した上で、めざすべき将来像を描き、その実現のための方策などを示したものの。